

開講年度・学期	2017年度・後期	授業形態	講義
科目名	欧州政治外交史	科目ナンバー	JAPOL2206
英語表記	European Political and Diplomatic History	担当教員	野田 昌吾
単位数	4		

### 科目の主題

社会主義からみたヨーロッパ・デモクラシーの発展

### 授業の到達目標

昨年度はオーソドックスに 1870 年代以降のヨーロッパ政治史の概説を行ったが、今年度は、「社会主義からみたヨーロッパ・デモクラシーの発展」をテーマに講義を行う。講義全体を通じて、ヨーロッパ政治史の基本的な知識の獲得と、ヨーロッパのデモクラシーが現代の諸問題の投げかける挑戦にどのように応答してきたかという点についての理解を深めることを目的とする。こうした歴史的検討の作業を通じて、講義のなかで、現代デモクラシーの置かれた位置についていっしょに考えていければと思っている。

### 授業内容・授業計画

一応の講義計画の概要は以下に示す通りである。

第1回	イントロダクション
第2回	第1部 第一次世界大戦前のデモクラシーと社会主義 (1) 「左翼」の登場
第3回	(2) 民主化の起点
第4回	(3) マルクス主義と左翼
第5回	(4) 工業化と労働者階級の形成
第6回	(5) 労働運動の興隆
第7回	つづき 労働運動の拡大など
第8回	(6) 社会主義を超える挑戦
第9回	つづき 人民主義、アナーキズム、サンディカリズムなど
第10回	つづき フェミニズム、社会主義、女性解放など
第11回	第2部 戦争と革命 (1) 戦争による断裂
第12回	(2) ロシア革命
第13回	(3) 革命運動の復活
第14回	(4) ドイツとイタリア
第15回	つづき イタリアなど
第16回	(5) 共産党の創設
第17回	(6) 女性と左翼
第18回	つづき 共産主義と女性など
第19回	(7) 左翼と文化
第20回	(8) 第一次大戦後の社会主義とデモクラシー

第 21 回	第 3 部 ファシズムから冷戦へ (1) 第一次大戦後の資本主義の安定化と社会主義
第 22 回	(2) スターリン主義と西欧マルクス主義
第 23 回	(3) ファシズムと人民戦線
第 24 回	(4) 第二次世界大戦と戦後政治の出発
第 25 回	(5) 冷戦と戦後的可能性の終焉
第 26 回	(6) 1956 年
第 27 回	第 4 部 ヨーロッパ左翼とヨーロッパ・デモクラシーの変容 (1) 1968 年
第 28 回	(2) フェミニズム
第 29 回	(3) 戦後左翼政治の変容
第 30 回	(4) ゴルバチョフと共産主義の終焉
<b>事前・事後学習の内容</b>	
必ずしも歴史的事件の継起を順を追って講義するという形をとらないので、近現代ヨーロッパ史の基礎知識があることが望ましい。コンパクトなものでよいので、ヨーロッパ近現代史の概説書をあらかじめ読んでおいて欲しい。授業後はノートを整理し、疑問点があれば次回授業時に質問すること。	
<b>評価方法</b>	
期末試験もしくはレポート。	
<b>受講生へのコメント</b>	
国際政治、政治学史の同時履修を薦める。	
<b>教材</b>	
講義全体についての参考文献は以下のとおり。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山口 定『現代ヨーロッパ政治史』上・下 (福村出版、1982-83)</li> <li>・ 篠原 一『ヨーロッパの政治 [歴史政治学試論]』(東京大学出版会、1986)</li> <li>・ 平島健司・飯田芳弘『改訂新版 ヨーロッパ政治史』(放送大学教材、2010)</li> <li>・ 網谷龍介・伊藤武・成廣孝編『ヨーロッパのデモクラシー [改訂第 2 版]』(ナカニシヤ出版、2014)</li> <li>・ 小山哲ほか編著『大学で学ぶ西洋史 [近現代]』(ミネルヴァ書房、2011)</li> </ul>	
<b>その他</b>	
<b>履修可能最低年次</b>	
2 年次生以上	